

十勝川水系自然再生検討会（第5回） 議事要旨

■日 時：令和7年2月27日（木）10：00～12：00

■場 所：帯広第2地方合同庁舎 3階共用会議室1～3

■出席者：中村委員長、赤坂委員、泉委員、卜部委員、柿沼委員、根岸委員、堀田委員、森委員、柳川委員、山岡委員、渡邊委員（以上11名、石原委員は欠席）

※委員長以降の順は五十音順

■議題

- （1）十勝川水系自然再生実施計画 十勝川下流・中流部編（案）について
- （2）十勝川水系自然再生実施計画 札内川編（案）について
- （3）十勝川水系自然再生地域連携委員会提言（案）について
- （4）今後の予定について

■議事要旨

- （1）十勝川水系自然再生実施計画 十勝川下流・中流部編（案）について
十勝川水系自然再生実施計画 十勝川下流・中流部編（案）について事務局から説明した。これに対し、委員から以下の発言があった。

■自然再生の目標について

- ・本編の項目 2-3 の目標の記載が唐突とを感じる。自然再生計画検討フローとも順番が異なるのではないか。（委員長）
→記載を工夫する。（事務局）

■生物指標について

- ・生物への整備効果を示す生物種数変化予測と、整備箇所形状設定や効果予測をする生物種のつながりが分かりにくい。（委員長）
→記載を工夫する。（事務局）

■自然再生の実施内容について

- ・配置計画の根拠や生物への必要性は、整備箇所毎に示していると分かりやすい。（委員）
→記載を工夫する。（事務局）
- ・検討段階の想定と現地状況が異なる場合があるため、現地状況を踏まえた形状設定等の適宜見直しをしていけるとよい。また、魚類移動の連続性では、流入支川の上流側の環境にも着目し、連続性確保の必要性があるか検討するとよい。（委員）
→事前調査を踏まえて検討を進める。（事務局）

- ・自然再生の計画書であるため、治水対策による掘削箇所についても、生物の生息場を創出することを目的とし、手段として掘削を実施する記載としたい。(委員長)
→記載方法を検討する。(事務局)
- ・生態系ネットワークへの整備効果を IIC (連結性指標) で示しているが、IIC の向上のみではどのような効果があるのか一般に対しての効果がみえにくい。(委員長)
→記載を工夫する。(事務局)
- ・詳細資料の項目 2-1 で、設定した生息場の効果の予測と評価とあるが、評価は整備後のモニタリングにより実施されるもので、この時点では予測のみではないか。(委員)
→「評価」の記載を「予測」に修正する。(事務局)

■維持管理について

- ・モニタリング結果により整備箇所の改善が必要となった場合を想定し、「維持管理」に関する記載が必要ではないか。(委員)
- ・施工後の状況を有識者に確認し、維持管理を実施できるような枠組みを組んでおくとよい。(委員長)
→順応的管理の項目について記載を工夫する。また、地域や企業と協力した維持管理についても検討していく。(事務局)
- ・整備後の変状に対し、どの程度の状態になったら維持管理が必要かなどを検討し、維持管理計画を策定していくことが将来的に必要と考える。(委員)

(2) 十勝川水系自然再生実施計画 札内川編 (案) について

十勝川水系自然再生実施計画 札内川編 (案) について事務局から説明した。これに対し、委員から以下の発言があった。

■札内川自然再生 (礫河原再生) との関連について

- ・既往計画である礫河原再生のためのフラッシュ放流の記載は必要ないか。同じ水系の取組であり、関連が分かるよう記載があるとよい。(委員長)
→礫河原再生に関する記載を拡充する。(事務局)

■自然再生の実施内容について

- ・霞堤の整備は支流が湧水河川であれば、ニホンザリガニ等の底生生物についても指標に加えることはできないか。(委員)
→魚類や鳥類以外の指標設定については、有識者意見を踏まえて検討していく。(事務局)

- ・恵津美川合流点の霞堤では、水質浄化の記載があるが、これは自然再生の目的としているのか。(委員)

→水質浄化は整備の付加機能として考えている。(事務局)

■エコトーンの減少要因について

- ・自然再生の必要性として挙げているエコトーンの減少について、要因の記載が必要と考える。(委員長)

→要因について記載する。(事務局)

■モニタリングについて

- ・長期的モニタリングは河川水辺の国勢調査を活用するため、霞堤が調査地点に該当しないのではないかと。(委員)

→調査地点については今後検討する。(事務局)

(1)、(2)に関連し、森委員より、生物への効果予測として、種数変化予測および生物種の生存確率予測について説明された。これに対し、委員から以下の発言があった。

- ・将来予測の減少傾向はどのような要因が考えられるのか。(委員)

→ある環境を増やすと減る環境が出ることが要因と推測される。また、ランダムフォレスト法の特性である相互作用による要因も考えられる。(委員)

- ・鳥類のランダムフォレストによる解析は、全国値に比べ十勝川では外れているが、どのような要因が考えられるのか。(委員長)

→他河川でも同様の結果となる。(委員)

- ・ランダムフォレストによる解析値と実測値の差から、差が多い箇所では要因分析をすると、周辺環境等の係数を加えるなどの方法が考えられる。(委員)

→解析値と実測値の逸脱度を平面化し、現地状況や周辺環境と比較することを考えている。(委員)

→解析値と実測値は、精度が高いのはどちらと考えられるか。(委員長)

→両方あるが、情報量が多い現地の実測値の方が精度は高いと考えられる。(委員)

→魚類は調査方法の観点から精度は高いと考えられる。鳥類はスポットセンサスで調査しきれないため、やや実測の精度が劣る。水質や堤内との連結性等について解析と合わせて確認したい。(委員)

- ・北海道は上流域の魚類種数が少ない特性があり、解析値と実測値の差に影響していないか。(委員)

→モデルにはエコリージョン区分をパラメータとし、地域性を反映している。(委

員)

- ・解析の精度向上の観点から、モニタリング計画は妥当か。(委員)
→モニタリングの項目は十分であり、今後の検証につなげていきたい。(委員)
- ・データが豊富な近年に絞って検証をし、精度を確認するのはどうか。(委員)
→各調査で調査努力が違うため、確認数を使いにくいですが、在・不在での解析では精度向上は期待できる。(委員)
- ・生息確率の予測は、確認数が少ない種で実施しているため、確認数が多い種でも解析してみてもどうか。(委員)
→確認種が多い種でも解析はできており、確認数が少ない種との生息環境との紐づけなどが出来るとよい。(委員)
- ・河川水辺の調査を用いた解析モデルは、水系レベルの検討で用い、細かい地点では、研究を含めた調査結果や別モデルでの解析としていくかなど、今後検討していいとよい。(委員長)
- ・指標種設定の考えでは、希少性や減少傾向に着目したが、地域の要望により一般的な種も取り入れることを適宜考えていくとよい。(委員長)

(3) 十勝川水系自然再生地域連携委員会提言(案)について

十勝川水系自然再生地域連携委員会提言(案)について事務局から説明した。これに対し、委員から以下の発言があった。

■自然再生との関連について

- ・自然再生の整備が地域の住民に良い効果があるかを考えたい。(委員)
→地域連携委員会で考えるべき理念であり、今後検討していく。(委員)
→地域への貢献方法を今後検討していく。(事務局)
→なぜ自然再生を実施するのかを示し、事業の理解を得ていくことが重要と考える。(委員長)

■地域連携のコンテンツについて

- ・提示のコンテンツと自然再生の整備がどう結びついていくかを検討して欲しい。(委員長)
→自然再生の整備箇所や取組や観光拠点を平面的に重ね、取組み候補箇所を抽出していきたい。(委員)

- ・バードバスという取組を地域の子どもと実施しており、環境教育と合わせ、環境 DNA

による調査結果の提供の可能性もある。(委員)

- ・自然再生の整備は観光に嬉しいが、ガイド等、自然環境について語れる人員が少ない状況である。環境教育により、地域への活動に広げていきたい。(委員)
- ・足尾銅山での森林再生として、植林を修学旅行で実施する取組がある。十勝は自然のブランドがあり、整備場の維持管理に携わってもらうプログラムはどうか。(委員)
 - JICAの支部が帯広にあり、世界にも取組を発信していける。(委員長)
 - 自然共生研究センターでは企業の見学希望が増えている。大人を対象に、観光振興と合わせて、簡単な維持管理に携わってもらうような取組も面白いと思う。(委員)

中村委員長より一般聴講者への発言要望があり、これに対し、一般聴講者から以下の発言があった。

- ・河川水辺の国勢調査における鳥類調査は堤防上での調査のため、確認される種のほとんどが草原性や樹林性の鳥類である。自然再生の整備箇所での活用は現状難しいと考える。(一般聴講者)
- ・指標種に挙げられたヨシガモ、アカモズ、オオジシギは、十勝川では確認数が少ない。渡り先の環境変化による数の減少があるため、生息場を整備しても変化がみられないかもしれない。(一般聴講者)
- ・オオヨシキリは最近、増加している。環境変化によるものか、母集団が増えたためかは不明である。(一般聴講者)
- ・魚類のエゾトミヨは確認数が少なく、イバラトミヨは多い。トミヨ属とした方が指標種として使いやすいのではないか。(一般聴講者)
- ・ニホンザリガニは、ヌップク川と恵津美川では見つかってないかもしれない。(一般聴講者)

(4) 今後の予定について

十勝川水系自然再生検討会、十勝川水系自然再生技術検討会、十勝川水系地域連携自然再生委員会のスケジュールについて事務局から説明した。これに対し各委員が確認された。

以 上